

「家族看護」研修資料 補足

P2 : 「家族アセスメント力の必要性」

社会背景や家族の構造が変化し、家族内で対処する力、打たれ強さは弱くなっており、専門職は家族アセスメント力をつけてバランスをとる

(Conflict=軋轢、紛争、もめごとは減らない)

「Conflict」～のむつかしさとは何か

□「家族がむつかしい」～

→「NSは」と置き換えて考えてみてください。家族からこう見られているかも＝一方通行の見方なので家族の立場に立ってズレを見極め修正することが大事

事例分析シートを使った事例検討

2. 対象：Aさん

検討場面の明確化：長女の要望に周囲が困惑している

(この場面のここを検討しよう、ということ)

<ステップ1> 困りごととは何か それぞれの言い分を書く

Aさん : ありがたいけど、うるさい 他の人にきつく当たらないで

長女 : 期待通りにならない

支援者 : 専門職としてのプランが通らない

etc

<ステップ2> 対処行動 それぞれが行っている対処

Aさん : まかせる 頼る 我慢する

長女 : 母の代わりに私が言わなければ やりきれない感情を支援者にぶつける

支援者 : 多職種カンファレンス 愚痴をいう

etc

<ステップ3> 背景

Aさん : 51歳時発症 発症前の人生設計は？家族としての発達段階は？

長女 : 25歳時母が発症

支援者 : 対処に困っている

etc

<ステップ4> 文脈と関係図 (P4.→P6.)

① ジョイニング (同じ方向を見る、対話できる関係になる) → 「わかってもらえた」

② 文脈を確認

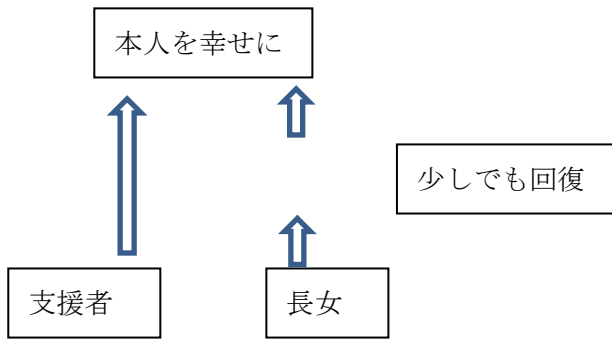
③ 真のニーズをつかむ

④ 共働 (協働)、役割分担

⑤ リフレーミング

× 従う、距離をとる 心理的・社会的状況を理解

◎ 困りごと・対処行動を理解する



3. 共通目標の設定

文責：佐藤